

地域再生計画評価調書(地方創生推進交付金事業効果検証調書)

地域再生計画の名称	デジタル技術等を活用した頑張る企業を応援する稼げるまち今治プロジェクト	地域再生事業の名称	デジタル技術等を活用した頑張る企業を応援する稼げるまち今治プロジェクト	令和6年度評価
-----------	-------------------------------------	-----------	-------------------------------------	---------

重要業績評価指標(KPI)の達成状況

評価指標	基準年数値	目標数値、実績値及び目標数値に対する達成度(上段は増加分、下段()内は総数)				達成度についての分析	
		目標	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)	2026年 (令和8年)		最終年目標数値 2065年
目標1 地域における新規雇用者数	0人	目標	+980人 (980人)	+990人 (1,970人)	+1,000人 (2,970人)	+2,970人 (2,970人)	目標1については、目標値を上回ることができなかった。就職に繋がるよう着実な事業実施が必要と考えられる。 目標2については、目標値の約2倍の数値となっており、市民のAIに対する関心の高さが見受けられる。 目標3については、交付条件を満たす事業者への周知等に努めたが、目標の件数を達成することができなかった。 目標4については、目標値と同数であるが、X-tech Lab Imabari((仮)ものづくりオープンラボ)がR6年11月開設以後、5か月の数値であり、スタートとしては十分な数値である。
		実績	+879人 (879人)	人 (人)	人 (人)	+879人 (879人)	
		達成度	89.7%			29.6%	
目標2 AI人材育成人数	0人	目標	+140人 (140人)	+140人 (280人)	+140人 (420人)	+420人 (420人)	
		実績	+267人 (267人)	人 (人)	人 (人)	+267人 (267人)	
		達成度	190.7%			63.6%	
目標3 スタートアップ創業件数	0件	目標	+1件 (1件)	+2件 (3件)	+2件 (5件)	+5件 (5件)	
		実績	0件 (0件)	件 (件)	件 (件)	0件 (0件)	
		達成度	0%			0%	
目標4 ものづくりオープンラボ参加企業数	0社	目標	+5社 (5社)	+10社 (15社)	+15社 (30社)	+30社 (30社)	
		実績	+5社 (5社)	社 (社)	社 (社)	+5社 (5社)	
		達成度	100.0%			16.7%	

評価年度において実施した事業

事業名	デジタル技術等を活用した頑張る企業を応援する稼げるまち今治プロジェクト(ソフト事業)	総合戦略における位置づけ	(基本目標)だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る (具体的施策)食品やエネルギー等地域産業とともに成長するまちづくり (取組)地域産業の競争力強化	事業費	37,407千円
<p>事業概要</p> <p>1 AI人材育成事業 市内企業のAI人材を育成し、企業自らがAI技術を理解し、生産工程等にAI技術を取り入れて活用を促進することを目指し、AIに関するセミナーやAI人材育成講座などを実施するとともに、市内企業のデジタル化・省力化・省人化による生産性向上につながる取り組みを行う。 令和6年度は、AIに関するセミナーを4件、AI人材育成講座を2クール実施。また、DX推進事業費補助として9事業者に対し支援を実施。</p> <p>2 スタートアップの育成・誘致事業 新しいビジネスアイデアや技術革新を持つスタートアップを市内で育成するとともに、全国からスタートアップ企業を誘致することで、若者が地域で活躍できる機運を醸成する。また市内企業とイノベーションを起こすことで新たな雇用を創出し、地域経済成長につなげる。 令和6年度は、地域資源等を活用し、新しいアイデアや革新的な技術によって新たな事業の展開を目指す提案を募集するビジネスプランコンテストを実施。(令和6年度実績:応募者数20名)。</p> <p>3 オープンイノベーション推進事業 「AI人材育成事業」や「スタートアップの育成・誘致事業」に関わった市内企業の従業員やスタートアップ企業の方が集まる場所を設けて共同研究やプロジェクトを促進するとともに、参加するメンバーが協力関係を構築し、域内外の革新的な技術やアイデアを取り入れて、新たな付加価値創出や新産業創出を進めていくことで、産業競争力強化に取り組む。 令和6年度は、令和6年11月にオープンした「X-tech Lab Imabari」の運営支援。また、技術開発・販路開拓事業費補助として3事業者に対し支援を実施。</p>					

事業効果		ビジネスプランコンテストの実施を通じて新たな創業に取り組む機運の醸成に繋げることができたとともに、1事例ではあるが、ビジネスプランコンテスト応募者に対し、市内企業を紹介することで新商品の開発販売に繋がった。また、AI関連のセミナー・講座の実施、DX推進事業への支援を通じ、企業の省人省力化、人材育成を図ることができた。さらに、「X-tech Lab Imabari」の開設によりデジタル技術の活用促進拠点として、人材育成や新たな技術・製品の共創推進、地域におけるイノベーションの加速を支援する体制を整えることができた。			
事業名	デジタル技術等を活用した頑張る企業を応援する稼げるまち今治プロジェクト(ハード事業)	総合戦略における位置づけ	(基本目標)だれもがこの地で元気に働けるふるさとを創る (具体的施策)食品やエネルギー等地域産業とともに成長するまちづくり (取組)地域産業の競争力強化	事業費	14,700千円
事業概要		ものづくりオープンラボの開設に向け、協働ロボットやデジタル工作機械(3Dプリンタ、レーザー加工機、自律移動ロボット、リベレットマシン等)、大型モニターの設置などに取り組み、令和6年11月に「X-tech Lab Imabari」としてオープン。			
事業効果		企業の人材育成や新たな技術・製品の共創推進などデジタル技術の活用促進拠点として、地域のイノベーションを促進するための施設整備ができた。			

評価及びそれを受けての市の方針

外部有識者による評価	議会からの意見	今後の方針、改善点など
<input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略のKPI達成に有効であった <input type="checkbox"/> 総合戦略のKPI達成に有効とは言えない (主な意見) 今後の方針のとおり事業を進めることで了承した。	デジタル工作機械の進歩は著しく、ものづくりオープンラボの利用を増加させるためにも、定期的な機器の更新や最新の機材購入を検討してもらいたいとの意見があった。 また、その他特段の指摘なく承された。	令和6年度に続き、AI人材育成講座やセミナーを実施し、人材育成を推進することで企業のDX化を促進する。また、ビジネスプランコンテストや創業希望者への支援を通じた創業・スタートアップを促進し、市内での起業創業・イノベーションの機運を醸成を図る。そして、それらの人や地域の企業による「X-tech Lab Imabari」でのデジタル機器の活用や相談対応、技術を有する企業とのマッチング支援を行い、新技術・新商品の共創を促進し地域産業成長を目指す。